

# 定期作況報告

平成18年10月  
(10月20日現在)

北海道立北見農業試験場

# 1. 気象経過

9月下旬：最高気温は平年よりやや高く、最低気温は平年よりやや低く、平均気温は平年並であった。降水量は平年より多かった（平年比144%）。日照時間は平年より多かった（平年比146%）。

10月上旬：最高気温は平年並、最低気温は平年より高く、平均気温は平年よりやや高かった。降水量は平年より極めて多かった（平年比452%）。日照時間は平年よりやや多かった（平年比128%）。

10月中旬：最高気温は平年よりやや低く、最低気温は平年並、平均気温は平年よりやや低かった。降水量は平年より多かった（平年比142%）。日照時間は平年並であった（平年比93%）。

以上のことから、この1か月間（9月下旬～10月中旬）は、気温は平年並、降水量は平年より極めて多く、日照時間は平年並であった。

注）降水量、日照時間についての平年値との比較表現は、各旬における過去10年間の平均値に基づいているため、「平年並」に含まれる値の範囲は旬毎に異なる。

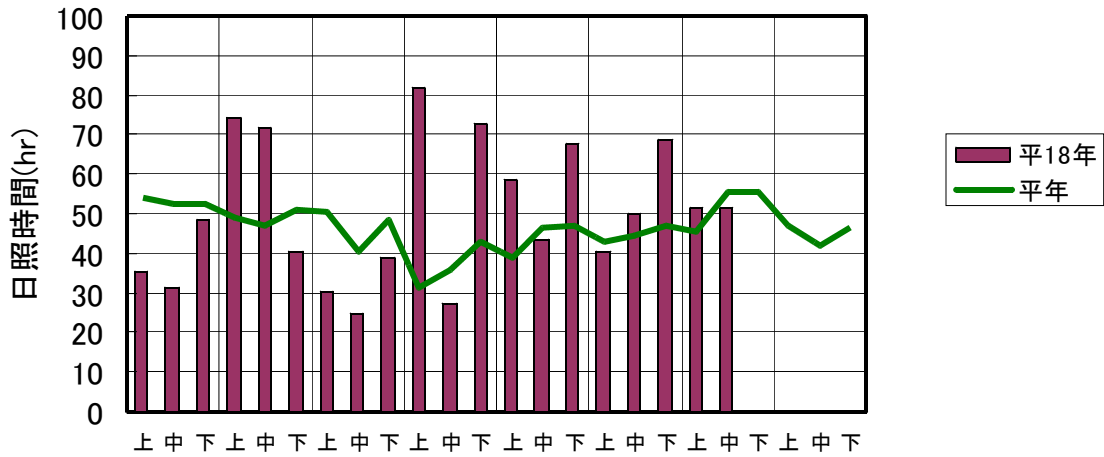
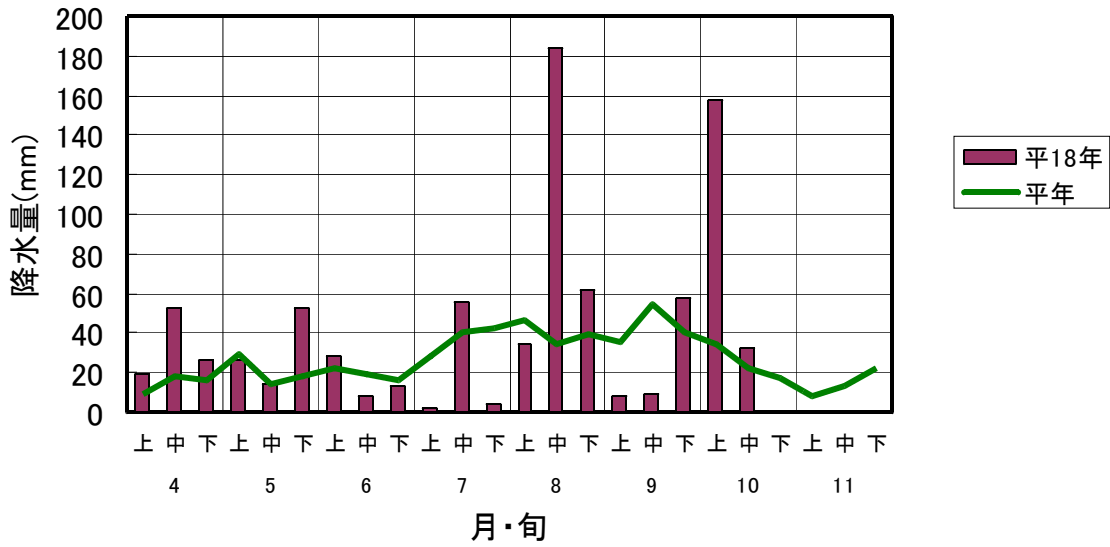
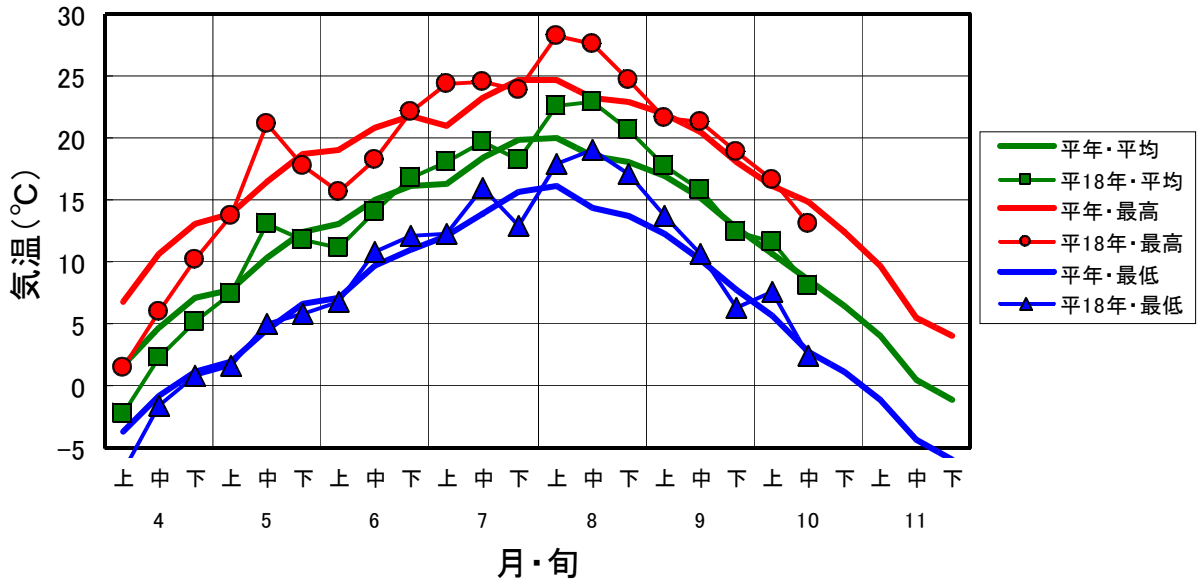
気象表

項目 月旬	平均気温 (°C)			最高気温 (°C)			最低気温 (°C)		
	本年	平年	比較	本年	平年	比較	本年	平年	比較
9月下旬	12.4	12.7	△0.3	18.9	18.0	0.9	6.3	7.7	△1.4
10月上旬	11.6	10.7	0.9	16.6	16.2	0.4	7.6	5.6	2.0
10月中旬	8.1	8.6	△0.5	13.1	14.9	△1.8	2.5	2.7	△0.2
平均	10.7	10.7	0.0	16.2	16.4	△0.2	5.5	5.3	0.2

項目 月旬	降水量 (mm)			日照時間 (h)		
	本年	平年	比較	本年	平年	比較
9月下旬	57.5	40.0	17.5	68.7	46.9	21.8
10月上旬	157.5	34.8	122.7	51.3	45.4	5.9
10月中旬	32.0	22.6	9.4	51.7	55.7	△4.0
合計	247.0	97.4	149.6	171.7	148.0	23.7

注) 1) 観測値は、置戸町境野のアメダスデータである。

2) 平年値は前10か年間の平均である。



## 2. 当場の作況

注) 本作況報告は北海道立北見農業試験場の平年値に対する生育良否に基づいたものであり、網走支庁管内全体を代表するものではありません。

### 1) とうもろこし(サイレージ用) 作 況：平年並

事 由：平年より1日遅い9月25日に収穫を行った。収穫時の稈長は平年並で、乾物茎葉重は平年より低かったが、収穫時の熟度は平年よりやや進み、乾物雌穂重および総体の乾物率は平年より高く、乾物総重および推定TDN収量の平年比はそれぞれ101%、102%であった。

以上のことから、目下の作況は「平年並」である。

調査項目	ディアHT		
	本年	平年	比較
収穫期 (月.日)	9.25	9.24	366
収穫時の熟度	黄熟中期	黄熟初 ～中期	
生総重(kg/10a)	5114	5880	△ 766
乾物茎葉重(kg/10a)	666	733	△ 67
乾物雌穂重(kg/10a)	836	759	77
乾物総量(kg/10a)	1502	1492	10
同上平年比 (%)	101	100	1
推定TDN収量(kg/10a)	1098	1072	26
同上平年比 (%)	102	100	2
総体の乾物率 (%)	29.4	25.6	3.8
乾雌穂重割合 (%)	55.7	50.9	4.8
有効雌穂割合 (%)	100.0	99.7	0.3

注) 平年値は前7か年のうち平成16年(最豊)、17年(最凶)を除く5か年の平均。

推定TDN収量 = 乾物茎葉重 × 0.582 + 乾物雌穂重 × 0.850。

## 2) 大豆

作 況：良

事 由：成熟期は平年より1～2日早く、「トヨコマチ」は9月26日、「トヨホマレ」は9月30日であった。百粒重は「トヨコマチ」、「トヨホマレ」ともに概ね平年並であったが、着莢数は「トヨコマチ」が14%、「トヨホマレ」が24%、それぞれ多かったことから、子実重は「トヨコマチ」は平年より16%、「トヨホマレ」は20%多かった。

以上のことから、目下の作況は「良」である。

調査項目		トヨコマチ			トヨホマレ		
		本年	平年	比較	本年	平年	比較
成熟期	(月.日)	9.26	9.27	△ 1	9.30	10.2	△ 2
主茎長(cm)	(成熟期)	53.9	58.8	△ 4.9	49.1	53.9	△ 4.8
主節節数	(成熟期)	10.7	11.1	△ 0.4	11.2	11.4	△ 0.2
分枝数(本/株)	(成熟期)	6.7	5.2	1.5	5.1	4.7	0.4
着莢数(個/株)	(成熟期)	72.6	63.1	9.5	90.9	73.5	17.4
子実重(kg/10a)		381	328	53	401	335	66
同上平年比 (%)		116	100	16	120	100	20
百粒重 (g)		31.5	31.9	△ 0.4	28.9	30.3	△ 1.4
屑粒率 (%)		0.3	0.7	△ 0.4	0.0	0.7	△ 0.7

注) 平年値は、前7か年中平成13年(最凶)、17年(最豊)を除く5か年の平均。

## 3) 小豆

作 況：良

事 由：成熟期は、「エリモショウズ」は平年より12日遅い10月9日、「サホロショウズ」は6日遅い9月24日であった。百粒重は「エリモショウズ」、「サホロショウズ」ともに平年よりやや軽いのが、着莢数は「エリモショウズ」が約30%、「サホロショウズ」が約15%上回っており、子実重は「エリモショウズ」は平年より23%、「サホロショウズ」は27%多かった。

以上のことから、目下の作況は「良」である

調査項目		エリモショウズ			サホロショウズ		
		本年	平年	比較	本年	平年	比較
成熟期	(月.日)	10.9	9.27	12	9.24	9.18	6
主茎長(cm)	(成熟期)	63.5	59.0	4.5	57.6	47.4	10.2
主節節数	(成熟期)	14.8	13.6	1.2	13.9	11.0	2.9
分枝数(本/株)	(成熟期)	3.7	3.4	0.3	3.1	4.1	△ 1.0
着莢数(個/株)	(成熟期)	61.8	47.1	14.7	54.8	48.1	6.7
子実重(kg/10a)		472	383	89	407	320	87
同上平年比 (%)		123	100	23	127	100	27
百粒重 (g)		14.0	15.7	△ 1.7	14.2	16.5	△ 2.3
屑粒率 (%)		2.2	3.2	△ 1.0	1.2	4.7	△ 3.5

注) 平年値は、前8か年中平成10年(最凶)、17年(最豊)および試験を中止した12年を除く5か年の平均。

## 4) 菜豆

作況：良

事由：百粒重は「大正金時」、「福勝」ともに平年よりやや軽かったが、着莢数は両品種共にやや平年より多かった。子実重は「大正金時」は平年より9%、「福勝」は7%多かった。ただし、北見農試圃場ではインゲン黄化病の発生が多く、約2割の個体に発病が見られた。

以上のことから、目下の作況は「良」である。

調査項目	大正金時			福勝		
	本年	平年	比較	本年	平年	比較
子実重(kg/10a)	342	314	28	377	352	25
同上平年比(%)	109	100	9	107	100	7
百粒重(g)	69.5	74.1	△ 4.6	85.5	89.3	△ 3.8
屑粒率(%)	7.9	3.8	4.1	5.0	4.8	0.2

注) 平年値は、前8か年中平成11年(最凶)、13年(最豊)を除く5か年の平均。

## 5) ばれいしょ

作況：良

事由：「コナフブキ」の枯凋期は平年より9日遅い10月13日であった。上いも数はほぼ平年並であったが、上いも1個重が平年より大きかったため、上いも重の平年比は118%であった。でん粉価は夏期の高温により平年より1ポイント低かったが、でん粉重は上いも重が多収であったことから平年比113%と多収であった。

以上のことから、前報の「男爵薯」と併せ、目下の作況は「良」である。

調査項目	男爵薯			コナフブキ		
	本年	平年	比較	本年	平年	比較
枯凋期(月.日)	9.4	9.6	△ 2	10.13	10.4	9
上いも数(個/株)	8.0	9.6	△ 1.6	9.4	9.3	0.1
上いも1個重(g)	118	96	22	133	111	22
上いも重(kg/10a)	4203	4182	21	5500	4662	838
同上平年比(%)	101	100	1	118	100	18
でん粉価(%)	15.3	16.0	△ 0.7	21.7	22.7	△ 1.0
でん粉重(kg/10a)	—	—	—	1139	1011	128
同上平年比(%)	—	—	—	113	100	13

注) 平年値は前7か年中、「男爵薯」は平成15(最凶)、17年(最豊)を、「コナフブキ」は平成14(最豊)、15年(最凶)を除く5か年の平均。

## 6) てんさい

作 況：良

事 由：収穫は平年並の10月18日に行った。9月下旬から10月中旬にかけての降水量が247mmと極めて多かったため、根中糖分の伸びは鈍く、移植栽培では2品種平均で平年比97%であった。その一方で、気温が平年並に推移したため、地下部の肥大は順調であり、移植栽培では2品種平均で平年比115%であった。結果的に、糖量は移植栽培では2品種平均で平年比111%、直播栽培では107%であり、平年を大きく上回った。

以上のことから目下の作況は「良」である。

調査項目	移植						直播		
	モノホマレ			アーベント			モノホマレ		
	本年	平年	比較	本年	平年	比較		平年	比較
収穫期 (月.日)	10.18	10.20	△ 2	10.18	10.19	△ 1	10.18	10.19	△ 1
茎葉重(kg/10a) (収穫期)	4976	6303	△ 1327	6020	5931	89.0	4576	5588	△ 1012
根 重(kg/10a) (収穫期)	7101	6380	721	7936	6674	1262	5793	5462	331
同上平年比 (%)	111	100	11	119	100	19	106	100	6
根中糖分 (%) (収穫期)	16.98	17.04	△ 0.06	16.75	17.76	△ 1.01	16.77	17.09	△ 0.32
同上平年比 (%)	100	100	0	94	100	△ 6	98	100	△ 2
糖量(kg/10a) (収穫期)	1204	1085	119	1329	1192	137	971	905	66
同上平年比 (%)	111	100	11	111	100	11	107	100	7

注) 平年値は前7か年中、直播「モノホマレ」は平成11年(最凶)、16年(最豊)、移植「モノホマレ」は平成11年(最凶)、17年(最豊)、「アーベント」は平成11年(最凶)、16年(最豊)をそれぞれ除く5か年の平均。

## 7) 牧草 (チモシー)

作 況：平年並

事 由：10月5日に収穫した3番草は、草丈が平年よりやや高く、病害罹病程度がやや低かったが、乾物収量は平年比88%と少なかった。1番草からの合計乾物収量は平年比100%の1076kg/10aであった。

以上のことから、目下の作況は「平年並」である。

調査項目		ノサップ		
		本年	平年	比較
刈取日	3番草	10.5	10.6	△ 1
病害罹病程度	3番草	3.5	4.5	△ 1.0
草丈(cm)	3番草	51	45	6
生草収量(kg/10a)	3番草	542	758	△ 216
	合 計	4903	4633	270
乾物率 (%)	3番草	28.8	24.8	4.0
乾物収量(kg/10a)	3番草	156	177	△ 21
	合 計	1076	1077	△ 1

注) 平年値は前4か年の平均(耕種概要・調査項目が大幅に変更されたため)。

病害罹病程度は、1:無または微~9:甚。病害は主に斑点病。